

ちゃぐりん～「食農教育」から学んだ青年部～

JA あきた北 小畑 良介

我々、JAあきた北青年部は秋田県北部、忠犬ハチ公で有名な秋田犬の生まれ故郷、大館市で活動しております。

特産物としては、比内地鶏、きりたんぼ鍋、とんぶりが全国的にも有名です。



フードレンジャー・チャグリン
©伊藤ちゆん子

突然ですが、皆さん！『ちゃぐりん』ってなんだか知っていますか？

家の光協会が発行している、同名の子供向け雑誌の事は知っている方も多いと思いますが、当JAあきた北管内では、それとは別に、平成14年から「食育事業」としての『ちゃぐりん』という活動が知られています。

ちなみに『ちゃぐりん』とは・・・「チャイルド・アグリカルチャー・グリーン」この三つの単語の略称が『ちゃぐりん』です。

この『ちゃぐりん』の購読者拡大を目的に、「体験型食農教育」として、JAあきた北ふれあい福祉部が事務局となり、青年部・女性部の協力で、農業への理解を深める活動に、取り組んでおります。

子ども達はもちろん、親御さんも、一緒に楽しく学べる場所を提供しております。

『ちゃぐりん』平成25年度の年間計画表です。

4月下旬に開園式を行い、ジャガイモとカボチャの定植や、草取りなど様々なイベント、勉強会、体験プログラムがあります。

この形になるまでの歩みと、青年部の関わりの中で、変化してきた盟友・参加者・地域のお話をしたいと思います。

1回目	4/27	開園式・ジャガイモ植え・ミニ学習	9:30～11:00
2回目	5/25	かぼちゃ苗植え・ぶちびー栽培学習	9:30～11:00
3回目	6/1	草取り・青年部農家視察	8:30～12:00
4回目	7/20	草取り・ブルーベリー収穫体験	8:00～12:00
5回目	8/3	ジャガイモ収穫体験・ミニ学習	9:30～12:00
6回目	8/31	かぼちゃ収穫体験・親子BBQ	11:00～15:00
7回目	11/2	青年部果樹収穫体験・お菓子作り	9:00～12:00
8回目	11/9	販売体験（直売所視察）	9:00～12:00
9回目	11/16	親子料理教室	11:00～14:00
10回目	12/21	親子郷土料理教室・餅つき大会	11:00～15:00
11回目	1/18	お楽しみ会・閉園式	11:00～15:00

青年部の関わりが本格化したのは、平成17年の春でした。ちゃぐりんでの栽培体験圃場作りをきっかけで、始まりました。

それまでの農業体験は、春の定植と、秋の収穫の際に、農家の畑にお邪魔するという形で、体験活動していました。

そこで、ちゃぐりん独自の圃場を持つ事で、作物を定植して収穫するだけでは無く、除草等の中間管理もしっかり体験してもらうことで、より深く農業に触れてもらいたいという想いからでした。

青年部の役割は、「圃場の準備と片付けをメインに、栽培指導もしてもらいたい」とのこと！取り敢えずやってみるべえ～！と始まりました。

取り敢えず・・・とはいえ青年部としての目的が必要です。

そのために四つの目的を設定しました。

一つ目 ちゃぐりんの目的を把握し、更に青年部らしい体感活動を取り入れるようにする事。

二つ目 青年部盟友もふくめて、楽しい活動にすることにより、若い農業者の取り込みと組織強化を図る事。

三つ目 親子への指導やふれあいを通して、人に教える事の難しさを学び、表現力を身につける事。

四つ目 活動を通して青年部や、若い農業者がいることをアピールしていく事。

この4つの目的を掲げて『ちゃぐりん』への関わりがスタートしました。

一年目は、正直なところ、青年部として、ここまで本格的な「食農教育」活動は初めてなので、まずは無理をせず、確実にできる事からのスタートです。栽培期間や、作りやすさなどを考慮して、ジャガイモ栽培を行うことにしました。

青年部では、耕起、肥料まき、畝立てまでを準備し、その後に参加した親子で、ジャガイモの定植と土寄せ、除草、収穫の合計4回の作業に参加してもらう計画で栽培しました。取り敢えず収穫まで無事に終わり、女性部にバトンタッチして、ジャガイモを使用した、親子料理体験の開催して、一年目の活動が終了しました。

一年目のじゃがいも栽培の確かな手応えと、参加者の笑顔に自信を付けた二年目からは、せっかく栽培体験をしてもらうなら、目新しいものがない！という事で、出た案が、「カボチャの空中栽培をしてみよう！」でした。早速、パイプハウスを使用し、カボチャの空中栽培にみんなでチャレンジしました。

ツルの誘引に苦労したものの空中栽培は、子ども達の歓喜の声が上がって見事、大成功でした。その他にも、アスパラ・ブルーベリー・大根圃場の見学や、収穫体験等のメニューも増やすことで、多品目の農産物を実際に見て、そして体験してもらうことにより充実した『ちゃぐりん農園』活動の形が整いました。

『ちゃぐりん農園』の体験メニューを増やすことで、参加者の農作業へ携わる回数も増え、内容も更に充実し、三年目も終わりを迎えた、反省会で、ある盟友からの一言がありました！

「農園の充実はできた。でも、これならどこでもやることでしょ。うちら青年部らしい、青年部にしかできない食農教育ができないものか？」

という提案で、改めて食農教育をみんなで考えました。そして、一つの大きな答えにたどり着いたのです。

それは・・・秋田ではもうみんな知っています。みなさん覚えていませんか？

そうです！秋田の食と農を守る！

「フード・レンジャーです！」

この新しい企画。ヒーローの存在がその後のちゃぐり



ん活動はもとより、青年部、いや！JA あきた北として、大きな大きな役割を担うことになりました。

四年目は『フード・レンジャー』を全面に出したことで、これまでのちゃぐりん活動と同じであっても、参加者の子供達とのふれあいが更に増えた事で、距離が一段と近くなったように感じました。

また、このヒーローを活用し、野菜の豆知識を、雑誌ちゃぐりんを参考に、クイズ形式での勉強会を、圃場作業の前に数分間行う事にしました。

五年目は、作って食べるだけの体験を、販売まで結びつけることができました。レンジャー効果で、JA 直売所にて、ちゃぐりん農園で栽培した野菜の即売会を開催しました。

また、複数の小学校から、学校菜園の指導や、社会の授業でのゲストティーチャーとして、教壇に立って欲しいとの依頼もあり、各支部盟友がそれぞれの学校で、農業について教室で授業をするまでとなりました。

七年目となった今年！ちゃぐりん企画から更に一歩進み、大きな二つの企画を成功させることができました。

まず一つ目は、小学校授業の経験から「ちゃぐりんフェスタ」を開催しました。学校のように1時間目から5時間目まで、ちゃぐりんならではの、農業を楽しく学べる、一日林間学校を企画しました！

これがこの時の時間割です。

一時間目 畑の教室。

二時間目 田んぼの教室。

三時間目 おむすびとデザート作り。

昼食をはさんで

四時間目 ちゃぐりんの時間 ここでフードレンジャーが登場しクイズ形式の勉強会を行いました。

五時間目 JA直売所「旬菜館」の見学。

子ども達にはよい思い出になったと思います。



二つ目に、ちゃぐりん農園での小学生との関わりの中で、大館市の小学校から5年生を対象にした、農業シンポジウム「農業の未来を自分たちの力で輝かせるために」というテーマで、青年部5名、市役所職員、JA 職員をパネリストに、ディスカッションを行いました。

子どもたちの農業・農村を考えた発表での真剣な眼差しは、盟友はもちろん、その会場にいた大人が、深く考えさせられた素晴らしい機会でした。そこで、子供たちに大人として、農業者として、農業の未来が明るいものだと伝えることが、できたのだろうか…大きな課題となったと同時に、我々、青年部盟友世代が、その道筋を作っていかなければならないとの責任感が、より強く、より大きくなったことは、素晴らしい刺激となりました。

始めは、正直に言うと、畑の準備と片付け程度の気持ちで始まった「ちゃぐりん」との関わり、子

ども達との触れ合いの中で、変わったのは、盟友一人一人の気持ちでした。意識が変わることで、やりたい事が年々増えていきました。

青年部として、企画を提案し、実施していく中で、盟友が「食農教育」を真剣に考え、役割や、自分達のやりたいことの他に、農業者として求められている事を、しっかりと受け止めて活動を展開していく事ができました。

ちゃぐりん農園を通して、青年部活動が地域に広く認知されました。それにより、地域との関わりも深まり、青年部として、若い農業者としての活躍の場が増えたのが、何よりの成果だったと思います。

ちゃぐりん企画の農園体験からスタートした、青年部の食農教育活動。その経験や子どもたちの笑顔から、盟友一人一人が「食農教育」を真剣に考えることで、若者・ヒーローの必要性を痛感し、盟友の意識改革ができました。そのことで、JA・地域からの青年部に対する期待度がさらに増したのです。

一方で、フード・レンジャーの立ち上げにより、活動の場も増えていき、求められている期待に応える事で、保育所、幼稚園、そして、小学校でも活躍した事で、ちゃぐりん活動がステップアップしてきました。

そうです！これで、青年部として地域での役割が明確になったのです。

それは、我々が地域の担い手である！という事です。このポジションを、我々青年部が、ちゃぐりん活動を通じて、確立することが出来たと強く信じています！

今後の目標は、ちゃぐりん企画の更なる充実と、継続です！

今年度開催した「農業のシンポジウム」を、大館市全域で小中学校を対象に開催し、地域の未来を農業を通して考える機会作りに挑戦します！

更に、次の世代との関わりを充実させるため、ちゃぐりんを経験した高校生達と、新しい企画を検討中です。一緒に企画・指導することで、より広い農業分野の可能性を感じてもらいたです。

子ども対象のちゃぐりん企画ではありますが、学生や親世代へ、食と農の大切さを伝える活動にもチャレンジします。

我々JA あきた北青年部の食育活動は、今後も歩みを止める事はありません。

最後になりますが、「食農教育」という言葉は、きっかけに過ぎません。我々は、農村に生まれ農村で育った世代です。

子ども達が大きくなった未来でも、大館が農村であることを誇りとし、その誇りを、次世代に繋げていく！イヤ、繋げなければならない！だからこそ今、我々は種を植えるのです。それこそが我々青年部の使命なのです！

